

原発 ゼロ にむかって

2012年2月27日 No.12

<http://www.tokyoiminiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyoiminiren.gr.jp

2月19日(日) 杉並において「2.19 脱原発杉並」が開催され 5,000 人が参加しました。

■多彩なアピール■

デモ隊の先頭は乳母車や保育園のお散歩カーに乗った子どもたち。続いて高齢者ののんびり隊。口々に「放射能こわい!」、「安心して野菜を食べたい! 牛乳を飲みたい!」、「原発をなくせ!」と叫びながらものんびりデモ行進。カラオケカーでは地元の人たちが交代で熱唱。ドラム隊は50人以上で演奏デモ、DJをやりながらの車やバンド演奏しながらの車。みんながそれぞれ、自分の意見を声に出しました。

午後、蚕糸の森公園から出発したデモ隊は5000人の行列に。医療生協の仲間も多く参加。デモの沿道にはあらかじめお詫びとお願いのチラシをまき、キッズ班を中心にトイレをお借りしたいというお願いもしました。在宅デモの呼びかけに応じてマンションの3階から黄色のタオルをふる人も。

■「脱原発」一点での協同行動■

この集会は当初、杉並社保協が発起しましたが、呼びかけが広がり、「脱原発杉並」という組織がスタート。政党・党派、思想信条を超え、「脱原発」の一点を認める人が協同しようとしてきた組織。昨年4月10日に高円寺に1万5千人を集めた「素人の乱」にも参加。毎回のうちあわせの出席者がどんどん増え、4回目は125人。会議の様子は「ユーストリーム」ネット番組で中継され、イラクの高遠さんから連帯のメッセージが届きました。

みんなで手分けして集会を支えました。さまざまな人が賛同者となり、ホームページが開設され、メールやツイッターでのやりとりの中で地域のワクを大きく越え、運動の輪が広がりました。「アラブの春」の時代に生きる我ら市民が協力しあって進める脱原発運動の力的一端を実感しました。

(東京西部保健生協 吉岡尚志「脱原発杉並」スタッフリーダー)



子どもから年配の方まで、仮装や楽器、カラオケまであり、色々なかたちでアピールしてました。私は生後2ヶ月の娘を連れて(最年少!?)参加。ほのぼのキッズ隊という子どもの行列は、「原発いらなーい! 牛乳飲みたいーい! 子どもを守ろうー!」と親子でアピール。私も、外で草でも土でも食べちゃうような元気な子に育ててほしいなあと思うので、原発事故による放射能汚染は許せません。事故からまもなく1年、原発を再稼働させない、作らせない、そして安全なエネルギーへ転換させる運動をこれからもしていかなきゃ! 終始眠っていた我が子ですが、また一緒に参加していきたいです。

(中野共立病院 看対 長井ちひろ)